

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169   A-750	21-030	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
National Trends of Tobacco, Alcohol, and Drug Use in Patients Admitted With Acute Myocardial Infarction 米国での急性心筋梗塞患者における喫煙、飲酒、薬物使用の全国的傾向		
<b>執筆者</b>		
Amer N Kadri, Sara Khodor, Ahmed Ali, Leen Nusairat, Asadullah Mahmood, George Nahhas, Samir Dabbous, James Spears, Syed Jafri, Steven Werns		
<b>掲載誌</b>		
Cardiovasc Revasc Med. 2021 May;26:26-31. doi: 10.1016/j.carrev.2020.10.021.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
急性心筋梗塞、飲酒、薬物使用、喫煙	33229134	
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 急性心筋梗塞（AMI）は米国で健康と経済の大きな負担になっており、喫煙、飲酒、薬物使用はこれらの既知の危険因子である。AMI患者の物質使用の全国的傾向を調査した。		
<b>方法：</b> 2005年から2017年のAMI入院患者を含む全国入院患者データを使用し、喫煙、飲酒、コカイン、オピオイド、大麻、他薬物使用の決定には第9版・10版の国際疾患分類を使用した。各危険因子物質使用の傾向は多変数ポアソン回帰で評価し、年変化率（annual percent change (APC)）を95%信頼区間（CI）と共に算出した。		
<b>結果：</b> 合計10,796,844人のAMI入院患者中、喫煙は32.7%で最も多く、飲酒は3.2%であった。2005年から2017年間、喫煙は21.5%から44.5%へ増加（APC+6.2%; 95%CI 6.2%-6.2%）した。喫煙者は非喫煙者に比して経皮冠状動脈治療と冠状動脈バイパス術をより受けている（41%vs25%, 6.9%vs4.9%, p<0.001）。飲酒(+3.1%; 95%CI 3.0%-3.2%)、オピオイド(+9.0%; 95%CI 8.7%-9.2%)、大麻(+7.2; 95%CI 7%-7.4%)、複合薬物(+7.1%; 95%CI 7%-7.2%)使用も増加傾向だったが、コカイン使用は微減傾向だった。		
<b>結論：</b> AMI患者の危険因子物質使用の全国傾向として、喫煙、飲酒、薬物使用割合の増加を明らかにした。AMI危険因子と医療制度や経済への負担を軽減するために、より効果的な防止施策が必要である。		